

会派視察・研修報告書

会派名 令和クラブ

代表者名 古庄修一

1 日 に ち	令和 4 年 10 月 14 日 (金)
2 視察先 研修名、主催者及び会場	茨城県境町
3 参 加 者	古庄修一、石田浩司
4 調査・研修の テーマ	自動運転バス成功事例について
5 主な内容	高齢者を支える重要な足をつくり交通難民を出さないまち、境町による、全国で初めて公道を走る自動運転バスの取り組みを視察した。 これは、既存の路線バスがある中で、町田市同様、バスの停留所の区間より短い区間をカバーするため、民間の停留所を使用し、許可不要で運行できる仕組みをつくり、住民にとってなくてはならない交通手段となっている好事例である。 (取組についての質疑応答) *事業の生産性はどうか 乗る人から 100 円、200 円貰ったとしても、賄えないため、年間 48 億円のふるさと納税等の中から賄っている。 *無料化をどのように実現しているのか (上記に同じ。) *地元バス事業者との関係はどうか 互いに相関関係を保っている。 *後続する車等についてはどうか 住民の理解が得られている。 *完全自動化の今後の展望はどうか 2023 年には、レベル 4 となるオペレーターなしでの走行が可能。 *これまでの事故についてはどうか これまで事故はなし (高齢者の運転する車がバックしてきて当てられたことはある)。

6 所感、提言事項、課題等	【議員氏名】 古庄修一 境町が行う自動運転事業については、「誰もが生活に困らないまちへ」というスローガンのもとソフトバンク子会社のボードリー(株) (旧 SB ドライブ) が開発した自動運転バスの運行管理システムを使い、ボードリー(株)がシステム管理、(株)セネックが運行管理を共同して行っている。 自動運転バス 3 台を導入し、生活路線バスとして、定時、定路線で運行している。バスは、片道 2,5 キロ 20 キロのスピードで走行し、病院や郵便局、スーパー等日常生活に必要な施設付近に設置された停留所で停止する。運行ルートは今後さらに伸ばす予定であるとのこと。 R3 年度は、地方創生交付金 2 億 6,000 万、地方交付税措置額 1 億 3,879 万円、総事業費 5 億 2,000 万円だった。経済効果は、関連収益が 5 億円から 7 億円とはっきり示されている。その点も学ぶべき点である。 9 月議会の一般質問で自動運転バスの取り組みを取り上げたが、それを受けての視察には大きな意義があった。今後の市の取り組みの中で、重要な参考資料となることは間違いない。 今後の展開は、執行部にかかっているが、一日でも早い動きを議員全体で求められるよう、その第一線で頑張っていきたい。 【議員氏名】 石田浩司 関東地区でも多いことが有名な、ふるさと納税額 4 8 億円の一部を使い、自動運転バスを運用している。現在はアシスタントが乗っているが将来は無人化をする予定。現在も遠隔管理がされており、今までに事故の発生はない。 ソフトバンクの子会社ボードリー(株) (旧 SB ドライブ) が自動運転ソフトをつくり、(株) セレックが運転管理を行っている。町民たちは協力的な方が多く、私有地をバス停に提供するなど自動運転バスについて理解があり苦情は少ない。 今後もルートの拡大が予定されており、近未来の乗り物であると感じた。境町自体が株式会社としての感覚を持ち、あらゆる分野で民間企業の役職員を採用するなどして先進事例や補助金活用事業を積極的に進めている。ふるさと納税や先進事業を進めるために参考になった。
7 写 真 等 ※視察の場合は必須、研修の場合は任意	 



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。